

主題研究

小規模校における学ぶ意欲を高める 指導方法と学習形態に関する研究 - 指導の展開例の作成と活用方法の提示をとおして - （第1報）

教科領域教育室 阿部 真由子

研究協力校

花巻市立笹間第二小学校

研究の概要

この研究は、小規模校において、学習指導を行う際に手がかりとなる指導の展開例とその活用方法の提示をとおして、学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態について明らかにし、学習指導の充実に役立てようとするものである。

2年次研究の第1年次の本年度に行ったのは次の内容である。

小規模校における児童の学ぶ意欲と学習指導の実態に関する調査を実施し、その分析・考察より、小規模校の学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態に関する基本構想を立案したこと

実態調査の結果及び基本構想をもとに、展開例作成の具体的方向性を明らかにし、小規模校における学ぶ意欲を高める指導の展開例のモデルを作成したこと

キーワード：小規模校 学ぶ意欲 指導方法 学習形態 展開例

研究目的

学習指導においては、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、学ぶことや考えることの楽しさや成就感を味わわせるなかで、自ら学ぶ意欲を育てることが大切です。特に、小規模校では、学習経験を豊かにし、ものの見方や考え方を広げるとともに、児童一人一人のよさを生かし、学習意欲を喚起するような指導方法や学習形態の工夫改善に努めることが必要です。

しかし、小規模校においては、互いに刺激を与え合う児童の数自体が少ないため、一人一人の多様な発想を大切に活動や活発な学び合いの活動、グループ別学習などを行えないことが多く、学ぶことや考えることの満足感や成就感を十分に味わっているとは言い難い状況にあります。また、多角的なものの見方や考え方が十分ではなかったり、自らを高めようとする気持ちが育ちにくかったりという状況も見受けられます。

このような状況を改善するためには、小規模校における児童の学習の状況を把握するとともに、小規模校の学習に関する先行研究や指導実践例を収集・整理し、学習目標や指導内容に応じた学習の方法や形態の工夫、児童の多様な発想を生かした活動の内容・方法・形態などの工夫という視点から作成した指導の展開例とその活用方法を提示することとおして、児童が、満足感・充実感を味わえる学習や物事を考える視野を広げる学習の在り方について構築を図っていくことが必要です。

そこで、この研究は、小規模校において学習指導を行う際に手がかりとなる指導の展開例とその活用方法の提示をとおして、学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態について明らかにし、小学校小規模校における学習指導の充実に役立てようとするものです。

学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態についての基本的な考え方

1 学ぶ意欲についての基本的な考え方

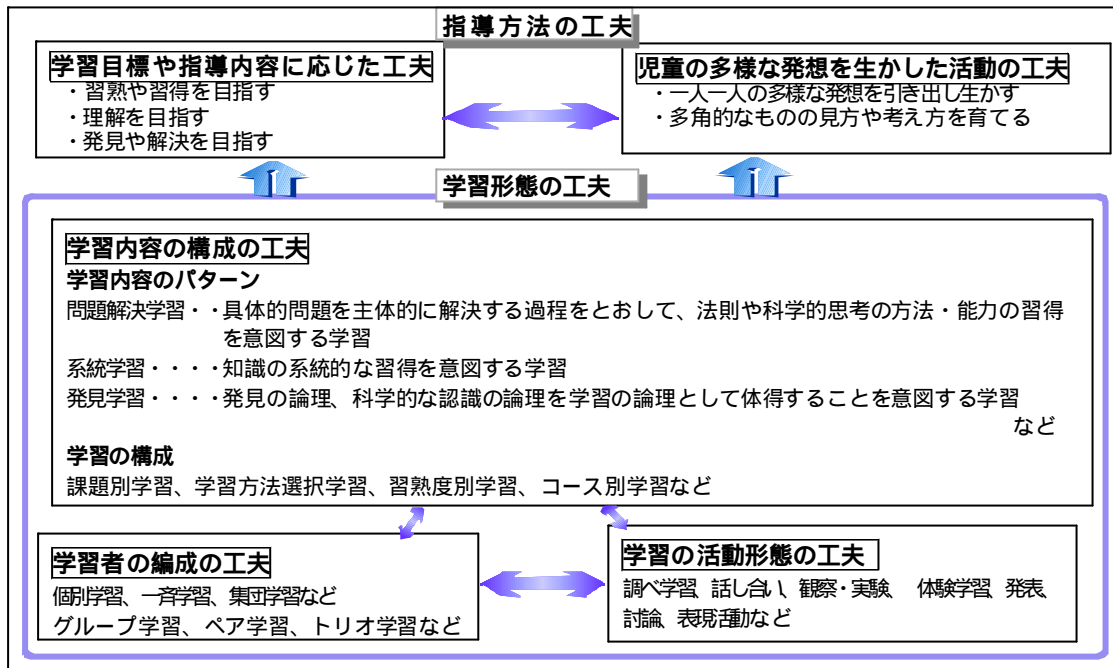
学習意欲は、生得的にあるいは自然に形成されるものではなく、児童と学習対象とのかかわりのなかで形成されるものです。桜井茂男氏は、この学習意欲を **内発的な学習意欲**、**外発的な学習意欲**、**無気力**の三つに分類しています。本研究においては、内発的な学習意欲と外発的な学習意欲を相互に関連付けて**学ぶ意欲**としてとらえます。

学ぶ意欲は、「考えたい」「知りたい」「体験したい」などの内発的な学習意欲によって支えられます。しかし、何らかの学習行動を引き起こすためにはそれだけでは足りません。学習行動を引き起こすだけの動機とそれを方向付ける目標が必要です。そして、対象とのかかわりのなかで、イメージとしてわき上がってくる「こうすればできそうだ」「わかりそうだ」という**見通し**と、知的・身体的力量を思う存分に行使する**おもしろさ**と、予想される学習成果が自分の人間としての能力を一段と高めるであろうという**期待**が合致したとき、内発的な学習意欲と外発的な学習意欲が相互に関連し、学ぶ意欲として高まります。そのための要素を **自主的学習態度**、**達成志向**、**責任感**、**従順性**、**自己評価能力**、**注意集中**、**発展性**、**学習価値観**の八つととらえ本研究を進めていくことにします。

2 学ぶ意欲を高める指導方法及び学習形態の工夫についての基本的な考え方

児童の学ぶ意欲を高めるためには、学校をとりまく教育環境、学習目標や指導内容、児童の学習スタイルや興味・関心の違いに応じて、指導方法や学習形態を組み合わせることが必要です。そこ

で、学習内容の構成、学習の活動形態、学習内容の構成の三つを学習形態ととらえ、学習目標や指導内容に応じる児童の多様な発想を生かすという視点から指導方法を工夫していくことにしました。



【図1】指導方法と学習形態の工夫

学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態に関する調査

1 調査の目的

この調査は、県内公立小学校における児童の学習状況にかかわる教師の意識と一人一人の多様な発想を大切にしたい指導や多角的なものを見方や考え方を育てる指導の実践状況を把握し、その問題点や課題を明らかにすることによって、研究の基礎資料を得ようとするものです。

2 調査の対象及び回収率

調査対象は、県内公立小学校から地域を勘案して抽出した7学級以上の中・大規模校86校(46.2%)と1～6学級の県内公立小学校282校(100%)です。回収率は、【表1】に示すとおりです。

【表1】調査資料回収状況 (単位:校)

学校規模	調査依頼校	回収数	回収率
中・大規模校	86	81	94.2%
小規模校	282	262	92.9%

* 学校規模別の比較により、小規模校の問題点や課題を焦点化したいと考え、中・大規模校も調査対象とした

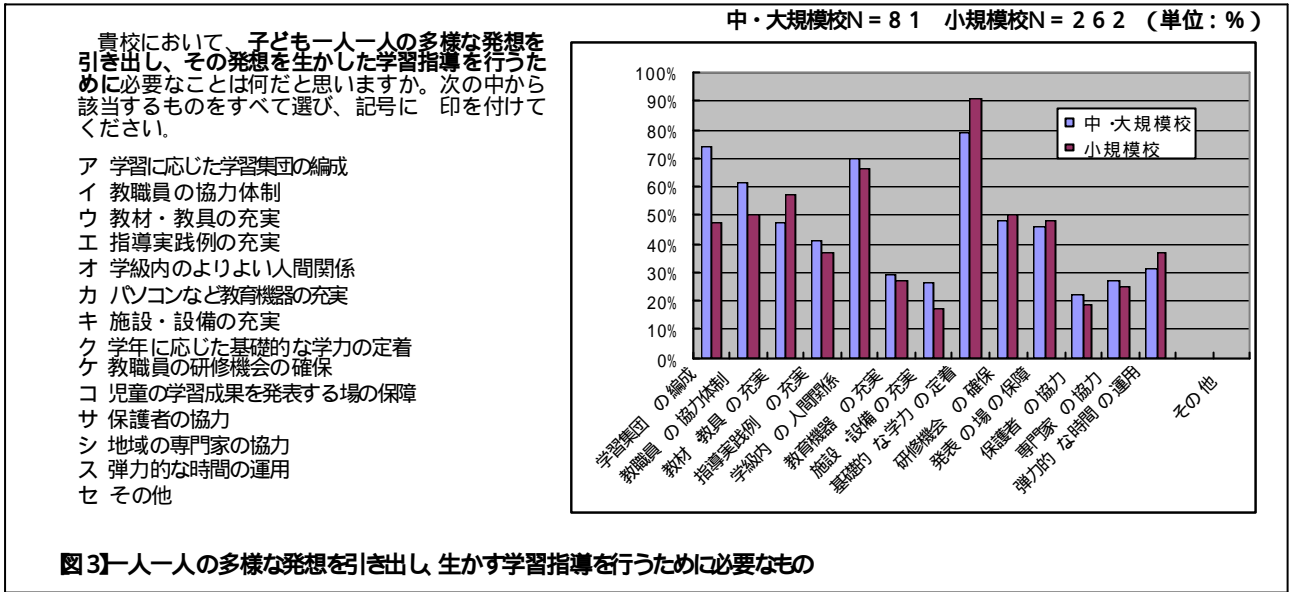
3 調査の観点及び内容

調査の観点及び内容は【表2】に示すとおりです。

【表2】学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態に関する調査の観点及び内容

調査の観点	調査の内容	
学校の状況	研究主題・重点としている教科等・学校を取り巻く教育環境	
児童の学習状況に関する教師の意識	自主的学習態度・達成志向・責任感・従順性・自己評価の習慣・注意集中の力 発展性・学習価値観	
指導方法と学習形態の工夫の実践状況	指導方法	指導方法
	一人一人の多様な発想を大切にしたい指導	多角的なものを見方や考え方を大切にしたい指導
	学習者の編成	個別・グループ・一斉など学習者の編成で行う指導方法の状況
	学習の活動形態	学び合いの活動や表現活動など種別で行う指導方法の状況
学習内容の構成	習熟や発見などねらいに応じた学習内容の構成で行う指導方法の状況	
指導方法と学習形態の工夫の実践に向けて必要だと考えること	一人一人の多様な発想を引き出し生かす学習指導を行うために必要なこと	
	一人一人の多角的なものを見方や考え方を育てるための学習指導を行うために必要なこと	

模校は56.9%であり9.8%上回っています。このことから、基礎的な学力の定着の必要性や教材・教具の充実の必要性は特に小規模校にかかわる問題であるといえます。



(3) 小規模校における学習形態の工夫の状況

小規模校において、多様な発想を生かしたり多角的なものの方や考え方を育てたりする学習指導のためにどのような学習形態を取り入れているか分析しました。

ア 学習者の編成の工夫

【図4】は、小規模校において、多様な発想を生かしたり多角的なものの方や考え方を育てたりするために、どのように学習者を編成しているか分析した結果です。

この図から、学習者の編成の工夫は課題別のところが多く67校、次いで学習達成度別が38校となっていることがわかります。その他、複式学級での異学年による学習者の編成の工夫などもみられます。しかし、学習内容や指導内容に応じて学習者の編成の工夫をしていない学校も97校あり、小規模校において学習者の編成を工夫することは難しいことがわかります。

イ 学習の活動形態の工夫

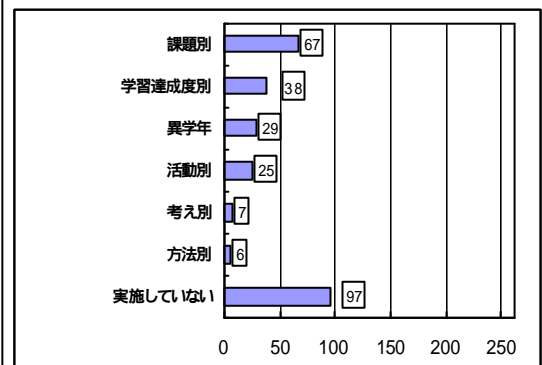
【図5】は、小規模校において、どのように学習活動の工夫しているのか分析した結果です。

この図から、多様な発想を生かしたり多角的なものの方や考え方を育てたりするために、学び合いの活動を取り入れているところが72校、次いで表現活動を取り入れているところが47校あることがわかります。その他、発表活動の工夫やゲストティーチャーの活用の工夫など認められますが、学習内容や指導内容に応じた学習活動の工夫を実施していない学校も82校あり、小規模校における学習活動のバリエーションは乏しいことがわかります。

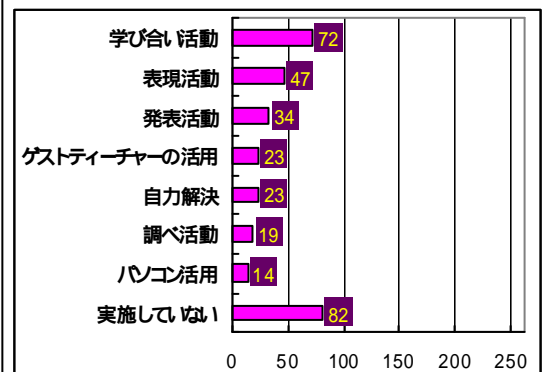
学習指導における実践についてお尋ねします。
子ども一人一人の多様な発想を引き出し、その発想を生かした学習指導を行うために次のような工夫をしていますか。実践状況について「A(実施している)」「B(実施していない)」で示してください。また、行っている場合はその内容と教科を、お書きください。

個別指導・グループ別指導・斉指導など学習者の編成の工夫
学び合いの活動や表現活動など活動形態の工夫
習熟や問題解決などねらいに応じた学習の構成の工夫

* 重複回答・無回答あり 小規模校N = 262 (単位: 校)



【図4】学習者の編成の工夫



【図5】学習の活動形態の工夫

5 小規模校における学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態にかかわる問題点と課題

【表3】は、調査結果について、問題点と課題を整理したものです。

【表3】小規模校における学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態にかかわる問題点と課題

	問題点	予想される要因	課題
児童の学習状況に関する教師の意識	小規模校の教師は、児童の学習状況を、達成志向はあるものの自主的学習態度や自己評価の習慣、発展性、学習価値観を含むメタ認知できる力など将来的な学びに結びつくと思われる意欲に欠けるととらえていること	学ぶ意欲についての理解が十分ではなく、児童一人一人の達成志向に応え将来的に学ぶ意欲を高めるといった視点からの指導方法や学習形態の見直しが十分に行われていないこと	小規模校で学ぶ児童の学ぶ意欲を喚起し、学ぶことや考えることの満足感や充実感を十分に味わうことができる指導方法や学習形態を工夫すること
	小規模校の教師は、中・大規模校の教師より、学ぶ意欲にかかわる児童の学習状況を低くとらえていること	小規模校においては、互いに刺激を与え合う児童の数自体が少ないため、学ぶことや考えることの満足感や充実感を十分に味わったり、自己の学習を客観的に見つめたりといった視点からの指導方法と学習形態が確立されていないこと	
指導方法と学習形態の工夫	児童一人一人の多様な発想を大切にしたり多角的なものの見方や考え方を育てたりする指導方法や学習形態の工夫が実施されている教科に偏りがあること	教科の特性のとらえが十分ではなく、学ぶ意欲を高めるといった視点からの教科の特性を生かした指導方法や学習形態の見直しが十分に行われていないこと	基礎的な学力を身に付けることのできる教科の特性を生かした指導方法や学習形態を工夫すること
	児童一人一人の多様な発想を大切にしたり多角的なものの見方や考え方を育てたりする指導方法や学習形態の工夫を行うためには、基礎的な学力の定着や学級内の人間関係が大切であること	小規模校としての長所を生かしつつ児童一人一人に基礎的な学力を確実に身に付ける具体的な指導方法と学習形態が確立されていないこと	
小規模校における学習形態の工夫の実施状況	学習者の編成の仕方、学習の活動形態の工夫、学習内容の構成といった学習形態の工夫は、画一的で偏りがあること	小規模校においては、指導体制に限界があるため、指導方法や学習形態の工夫のバリエーションが少なく画一的になりがちであること	学校の有する条件に対応し、学ぶ児童の視野を広げ、学習展開の発展性・多様性を期待できる指導方法と学習形態を工夫すること
	学習形態を十分に工夫して学習指導を行っている学校は少ないこと	小規模校においては、学年を構成するメンバーに変化がないため、視野を広げたり、学習の発展性・多様性を期待したりといった視点からの学習指導を行う際には、様々な工夫が必要であること	
	小規模校においては、児童一人一人の多様な発想を大切にしたり多角的なものを見方や考え方を育てたりする指導方法や学習形態の工夫を行うために、学校の有する条件に適した教材・教具の充実が必要であること	小規模校のなかでも学級人数にばらつきがあるため、学校をとりまく教育環境や学級人数に対応した指導方法と学習形態が確立されにくいこと 学校の特色を生かした教科指導の方法と学習形態が確立されていないこと	

小規模校における学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態に関する基本構想

小規模校における学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態にかかわる三つの課題を解明していくための次の点から具体化を図りました。

学ぶ意欲を高める学習指導の視点

小規模校における学ぶ意欲を高める学習指導の内容の明確化

小規模校の学習指導を支える条件の整備と充実

1 学ぶ意欲を高める学習指導の視点

学習活動時における学習意欲について高浦勝義氏は、それ自体で完結している欲求なり意志、感情ではなく、いうなれば主体の形成している興味・関心・態度の反映と考えることが大切であると述べています。このことから、前述の学ぶ意欲の八つの要素を高めるためには、次の視点から児童の興味・関心・態度に合致するような学習指導を模索していく必要があると考えました。

- ・ **動機付けを図る視点** 児童が自分から進んで学習への意欲を抱くことができるようにするためには、児童の知的好奇心を刺激し主体的な探究活動を誘発するとともに、教科の特性及び学級人数や学校の有する条件を生かした動機付けが不可欠である。
- ・ **基礎的学力を身に付ける視点** 学ぶ意欲の八つの要素を高めるためには、「自分が十分な努力をすれば望む結果が得られる」という《結果期待》が不可欠である。学習目標や指導内容に応じた、適切な学習の方法や基礎的学力を確実に身に付ける学習指導を行う必要がある。
- ・ **発展性・多様性を期待する視点** いったん獲得された学習も時間が経過したり、次の学習への転移が図られなかったりすると忘却する。学ぶことや考えることの満足感や充実感を十分に味わい、児童の視野を広げるためには、身に付けた学習スキルと学習内容を適切に組み合わせ活用し、自分なりに学習を発展させたり、さらに学び続けたりできるようにすることが必要である。

2 小規模校における学ぶ意欲を高める学習指導の内容の明確化

上記のそれぞれの視点を網羅して考えられる指導方法と学習形態の工夫の内容は、次のとおりです。

内容

学習目的を明確にすること

- ・ 自主的学習態度を育てる・達成志向を育てる・責任感を身に付ける・従順性を育てる・注意集中の力をつける・自己評価能力をつける・発展性を意識させる・メタ認知できる

小規模校に対応した学習形態を工夫すること

- ・ 学習内容の構成・学習活動の形態・学習者の編成
興味・関心・能力等児童一人一人の実現状況に応じた支援・指導

3 小規模校の学習指導を支える条件の整備と充実

岩手県内の小規模校は、全校児童2名の極小規模校から206名の小規模校まで学級人数に大きな幅があります。児童数の少数化に伴うデメリットは指導者の少数化です。少ないスタッフでどのように指導の効率を上げるかは、大きな課題です。

また、小中併設校や本校分校、さらに山間部や沿岸部、沿線沿いなど学校の有する教育環境の違いも大きいです。教育環境の違いは、生活経験や学習経験の差となって表われます。施設・設備、教材・教具、指導スタッフなど学校の有する条件を有効に活用することが重要です。

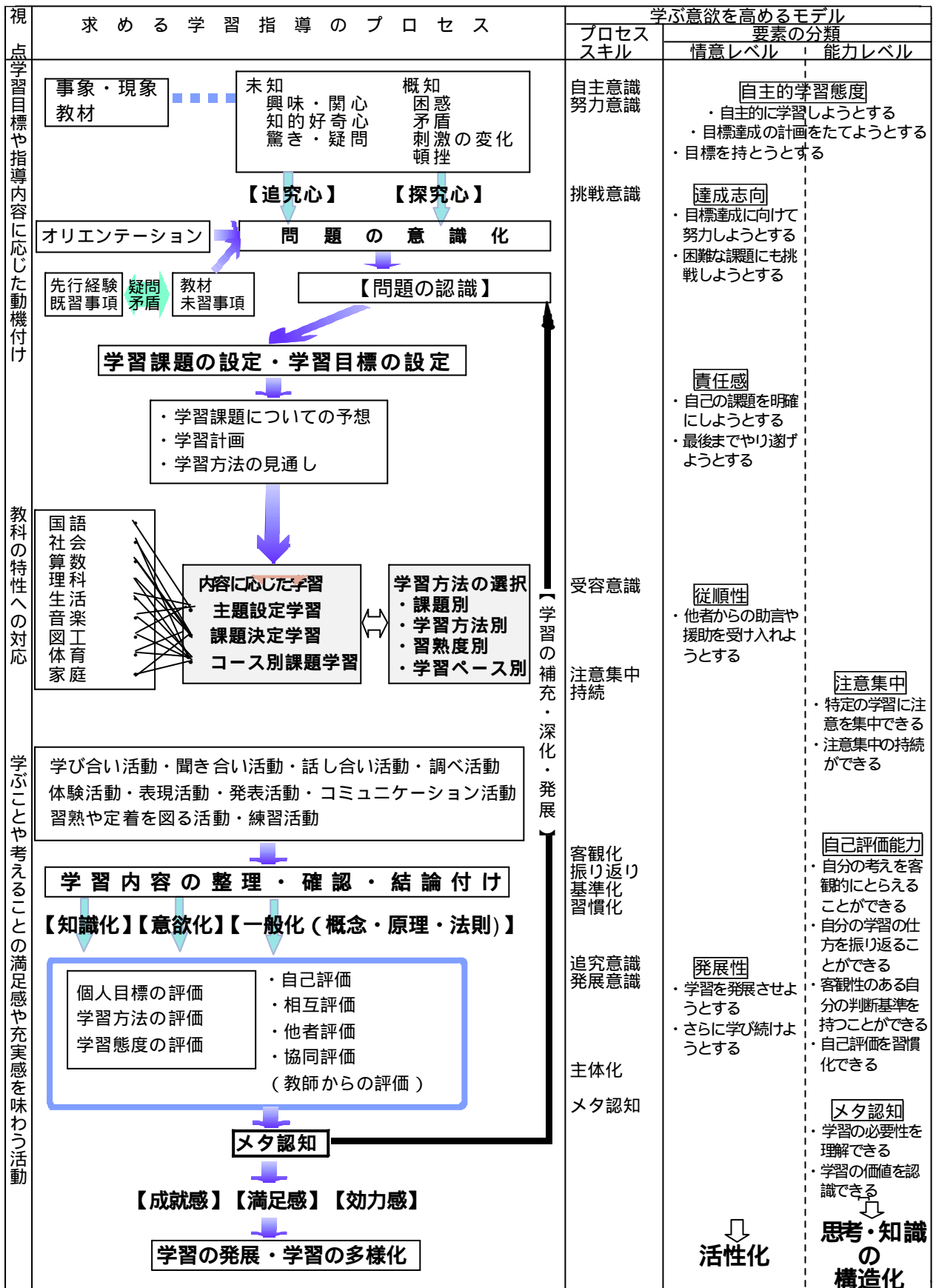
そこで、小規模校の学習指導を支える条件の整備と充実について【表4】のように考えました。

4 具体化のための方法

【表4】小規模校の学習指導を支える条件の整備と充実

教材教具の充実	教育機器の活用	協力体制の充実
児童の発達段階に適したものであり、学年の指導目標を達成する内容のもの 学校の有する教育環境を生かしたものであり、児童の興味・関心、疑問や願いを膨らまし課題解決への意欲がわくもの 一人一人の実現状況に対応したものであり、さまざまな問題解決の方向性を期待できるもの	児童の視野を広げるため 児童の学習空間を広げるため 間接体験による基礎学力の定着を図るため 学習活動の発展性・多様性を期待するため 学習の効率化を図るため 一人一人の実現状況に対応するため	協働することで専門能力や特性を最大限に生かす工夫 事前の計画・授業の実践・事後の評価に至るまでの過程を共同作業で進める工夫 一人一人の教師が生きるように役割分担を明確にする工夫

児童の学ぶ意欲を高める学習指導の具体的方法とプロセスは、【図6】に示すとおりである。



【図6】学ぶ意欲を高める学習指導の具体的方法とプロセス

*メタ認知は、学習価値観までも含む能力

5 小規模校における学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態に関する展開例

前述の基本構想をふまえ、小規模校における学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態に関する展開例のモデルを作成しました。以下、抜粋して紹介します。

展開例 1 基礎的学力を身に付ける学習

対象
学年 小学校3年生 想定人数 10名程度
学科 算数

指導方法と学習形態の工夫
個別学習の時間の確保（自力解決）
グループ学習による発展的な学習
『進捗確認カード』による習熟状況の把握
パソコン活用による習熟度に応じた学習

1 単元名「あまりのあるわり算」
2 **ねらい** ・既習のわり算の計算方法を生かして、あまりのあるわり算の答えを見つけたり、わる数とあまりの
関係を見つけたりすることができる。
・あまりのあるわり算の計算とその確かめができる。
3 **学習形態の工夫**

コース別の工夫

個々の習熟の状況を確認する。基礎・基本の定着を確実にする。
個別学習

基礎的・基本的内容の確認
学習のまとめ
一斉学習

学習内容が定着している児童が、互いに疑問や考えを出し合う。発展的な学習をめざす。
グループ学習

4 **指導計画**

段階	学習内容	学習活動・指導の工夫	編成	支援・指導
追究	わり算の意味の理解を深める（等分除）	$42 \div 5$ の問題場面で、あまりのあるわり算の立式と答えの求め方確かめる。 $\quad \quad \quad \times 5 = 42$ のを求める。 ・自力解決する。 ア おはじきを使って考える。 （1個ずつ、2個ずつ・・・分ける・見当を付ける。） イ 図を使って考える ウ 既習の計算を使って考える。	一斉	一人分の数の求め方がわからない児童には、学習ヒントカードを配布する。
	わり算の習熟を図る	個々に合った学習コースを選んで進める・・・教師は、個別の学習の習熟に応じてコース選択の助言をする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; margin: 0;">個別学習コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求め方のまとめをする ・問題を解く ・わる数とあまりの関係について知る ・答えの確かめ方を知る ・文章題を解く </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; margin: 0;">グループ学習コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を解く ・わる数とあまりの関係について考える ・答えの確かめ方を考える ・文章題を解く ・文章題を作る ・友達の問題を解く <p style="font-size: small; border: 1px dashed gray; padding: 2px; margin: 5px 0;">Eメールを使って、作成した文章題を他の学校と交換し、問題を解き合うことも考えられる。</p> </div> </div>	個別グループ	個別コースには一人一人の考え方を確認し、補充問題を与える。 グループ学習コースには、習熟の状況を確認しながら協力して学習を進めるように助言する。 随時、資料コーナーに行き、具体物进行操作したり、ヒントカードで復習したりできるようにする。 必要に応じてパソコンを使って学習する。
まとめ	既習事項のまとめをする（3時間）	・あまりのあるわり算を使ったゲーム等をする。 ・友達の問題を解く		

展開例2 動機付けを図る学習

対象
 学年 小学校3・4年生 想定人数 10名程度
 教科 国語

指導方法と学習形態の工夫
 他の学年を意識した学習活動
 グループやペアによる伝え合い
 総合的な学習の時間との関連

1 単元名と教材名 3年 まとまりに気をつけて読もう 「ありの行列」
 4年 段落のつながりに気をつけて 「ツバメがすむ町」

2 学習形態の工夫

学習者編成の工夫

リーダーによる話し合い形式をとる。自力解決した内容について、同年の児童によって練り上げていく。

相手の話に耳を傾け、聞く。そして、話す。その過程で、理解をさらに確かなものにする。

3 指導計画

学習形態	学習活動（3年生）	学習活動（4年生）	学習形態
3・4年合同の活動	1 学校や地域の中で見つけたり、観察したりした生き物や樹木を、簡単に地図や表に整理し、不思議に思ったことを書き出す。 2 作品を概観する。 「ありの行列」を通読し、初発の感想を交流する。	1 学校や地域の中で、見つけたり観察したりした生き物や樹木を、簡単に地図や表に整理し、不思議に思ったことを書き出す。 2 作品を概観する。 「ツバメのすむ町」を通読し、初発の感想を交流する。	3・4年合同の活動
学年別活動	3 学習の見通しをもつ。 ・説明文の読み方を考える。 ・「課題文」の答えを求めて読み進めると読むのめあてをもつ。 ・発表会（紹介文）や並行読書を位置付けた単元の読書計画を立てる。	3 学習の見通しをもつ。 ・リード文から読み取るべき事柄を想定する。 ・フィールドワークをする見通しをもつ。 ・発表会やフィールドワークを位置付けた単元の計画を立てる。	学年別活動
	<p>並行読書 身近にあるものについて観察・実験した読書を読む。</p> <p>4 総合的な学習の時間との関連を図る。 5 学校や地域を探索する中で見つけた身近にあるもの不思議さやすばらしさについて、発言する。 ・見つけた不思議さやすばらしさについての答えが書かれた本を探して読んだり、実際に実験・観察したりする。</p>	<p>並行読書 身近にあるものについて観察・調査した調査報告文を読む。</p> <p>4 総合的な学習の時間との関連を図る。 5 調査議題を決めてフィールドワークし、その結果と考察をまとめて発言する。 ・調査方法と調査項目を話し合い、書き込み用紙を用意する。 ・フィールドワークして記録する。</p>	

展開例3 発展性・多様性を期待する学習

対象
 学年 小学校5年生（5・6年複式も可）
 想定人数 8名程度（4名以上可）
 教科 社会

指導方法と学習形態の工夫
 情報機器の効果的な活用
 ジグソー学習による複線型の活動
 ディベートの位置づけ

1 題材名 「貿易と運輸」

2 ねらい (1) 地図やグラフなどの資料を読み取ってわかったことから、日本の貿易の特色を考え、主な貿易相手国や輸出入額の比率をとらえることができる。
 (2) 日本の貿易のおもな品目を統計資料から読み取り、原料や燃料・食料を輸出し工業製品を輸出してきた従来の加工貿易や、アジア諸国で作られた製品を日本が輸入する貿易など、日本の貿易の特色に気付くことができる。
 (3) 日本の貿易の発展によっておきてきた貿易摩擦の実情を調べ、これからの貿易の在り方について自分なりの考えをもつことができる。

3 学習形態の工夫

ジグソー学習

Aグループ
Bグループ

選択肢・輸出入調査

自由貿易を進めるグループ
制限貿易を進めるグループ

ディベート

Aグループ
Bグループ

ジグソーセッション

ジグソー学習
 アメリカの心理学、エリオット・アロンソン博士が開発した学習方式。グループの成員一人一人が異なる教材を学習し、互いに協力してすべての教材について学習し合う共同学習。

極小規模校において、カウンターパートセッションを本校での学習に位置づけたジグソーセッションを集合学習により近隣の小規模校の同士集まりで行うことも可能である。集合学習において、ジグソー学習を用いることによる視野の広がりを期待できると考える。

4 指導計画

段階	学習内容	構成	学習活動・指導の工夫	編成	支援・指導
動機付け	日本の貿易について、調べたい課題をもち、学習計画を立てる。	課題選択	日本のげんかん横浜港 ・教科書を参考に横浜港の様子について話し合う。 ・工業生産において横浜港の果たす役割について話し合う。 ・横浜港に集まってくる品物はどこからどのように運ばれているのか調べる。 ・日本の貿易について調べたいことを考え、発表する。 (選択肢)ア 輸出調査 イ 輸入調査 ・課題を追究するための学習課題をなてる。	一斉 個別	教科書より、港には自動車などの製品や生産するための原材料が集まってくることを具体的にとらえさせる。 日本の貿易の特色を知る方法を選択し、まとめ方を考えさせる。
追究	課題解決に向けてを追究する。	カウンタートセッション	日本の貿易相手・輸入に頼るもの、輸出の主役 ・2つのグループに分かれて日本の貿易の特色を探る。 ア 輸出調査グループ ・輸出額の多い国を調べる。 ・輸出額の多い国の貿易品目を調べカードに記入し、輸出の主役を知る。 ・輸出相手国の推移を調べる。 イ 輸入調査グループ ・輸入額の多い国を調べる。 ・輸出額の多い国の貿易品目を調べカードに記入し、輸入に頼るものを知る。 ・製品の輸入の増えたわけについて考える。 調べたことを発表する。	グループ学習	インターネットを活用し、最新情報を得られるようにする。 輸出入記録カードを準備し、記録しやすいように配慮する。
まとめ	これからの貿易で大切なことは何か考えディベートを行う。 学習内容をまとめる。	ジゴソセッション	調べたことからわかってきた問題点を話し合う。 つりあいのとれた貿易 ・前時で話し合った貿易についての問題点をそれぞれの立場から討議し、これからの貿易の在り方を探る。 A) 自由貿易を進めるグループ B) 制限貿易を進めるグループ 壁新聞づくり ・前時の貿易討論会を終えて、各自が考えた日本の貿易の在り方をまとめ、壁新聞を作る。 ・役割分担により、一人一つの記事を書く。 ・パソコンを活用し、グラフなどを取り入れた記事にする	一斉 グループ学習 個別 グループ	互いの発表から学び合うことで日本の貿易の特色の理解を深めさせる。 選択肢によるグループで調べたことを自分のグループの意見として活用することを助言する。 ディベートが行いやすいように意見・ディベートより学んだことを取り入れながら一人一つの記事を書く。 グループで一枚の新聞にまとめる。さまざまな角度から日本の貿易について考えられるようにする。
評価	学習を振り返る。		学習を振り返って(自己評価) ↔ 友達の評価(相互評価)	個別	友達からの評価も取り入れながら自己評価するように助言する。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本年度は、2年次研究の1年次として、次のような成果が得られました。

- (1) 学ぶ意欲についての基本的な考え方を明らかにするとともに、自主的な学習態度、達成志向、責任感、従順性、自己評価能力、注意集中、発展性、学習価値観の八つを学ぶ意欲の要素としてとらえることができたこと
- (2) 学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態に関する実態調査を実施し、その分析・考察をとおして、小規模校における学ぶ意欲を高める学習指導についての課題をとらえることができたこと
- (3) 調査から明らかになった三つの課題を解決するための手だてを検討した結果、小規模校における学ぶ意欲を高める学習指導の視点として「動機付けを図る」「基礎的学力を身に付ける」「発展性・多様性を期待する」を位置づけ、小規模校における学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態に関する基本構想を立案できたこと
- (4) 実態調査の結果及び基本構想をもとに、小規模校における学ぶ意欲を高める指導の展開例のモデルを作成できたこと

2 今後の課題

展開例に基づく実践をとおして、小規模校における学ぶ意欲を高める指導方法と学習形態について実践的、事例的に究明していきます。また、資料を収集し、展開例の内容を充実させるとともに活用方法を具体的に提示していきます。なお、実践にあたっては、学ぶ意欲を高めるための視点について、さらに検討を加え、小規模校の有する条件や実態に即した展開を構想していく必要があると考えています。